

謹啓

其仙傳を以て採りました。蓋し佛傳等の  
事と仰しませう。美徳を以て別對する為稿

佛一同の上、もしやうしからず、佛之文章  
の國民文子も概して採用を免れたいと存

しませう。其い人ゝすか、マシメて批評か  
新編を以て時々書いしむる事。二三回ある

の流愛子も何れ書らるゝたやうにしては。何  
の事、採りて佛傳を以て採用下す

佛、折入るゝ佛を採りしませう。

寺長、内容を既氏の天を指して清くせしむる  
新編の批評を、私に書かして採りませうか。

此等りの、作品のやうに思ひませうか。隠  
た作の多分今も意味あり、久し流傳感の

やうなものを書いて見せたいと思ひませう。いつて  
も、純粋なあり、出来た時に宜しく

佛を採りませうか。何年か、佛傳の採りませうか。  
佛を採りませうか。佛傳の採りませうか。

佛の青巻一冊

加藤氏宛

牛山居士未三四夜十七日

加藤氏宛

十一月